

令和8年度第1回綾瀬市特別職報酬等審議会 会議録

開催日時	令和8年4月27日（月）10:00～11:40
開催場所	市役所窓口棟3階304会議室
出席者	<p>〈委員〉 吉川会長、守矢職務代理、池田委員、落合委員、栗原委員、平出委員 （事務局） 庄司総務部長 職員課 今村課長、池田</p>
欠席者	平本委員
会議要旨	
1 開会	<p>会長あいさつ</p> <p>会議の公開・非公開について （事務局から会議の公開・非公開について説明）</p> <p>（会長） 原則公開だが、この会議で活発な議論ができないと、審議会の目的を果たすことができないため、傍聴者がいた場合、忌憚のない意見を出すことができなくなってしまのおそれがある。そのことから非公開という形で進めていくのが良いのではないかと考えるが、いかがか。</p> <p>（委員賛同）</p> <p>（委員） どういう意見が出たかは公開すべきであるが、誰がその意見を言ったのかは伏せてもらうのが良いと考える。</p> <p>（委員） どのような形で公開がされるのか、また公開の方法は。</p> <p>（事務局） 議事録の委員名を伏せた状態で意見や審議内容が分かるように公開することができる。公開はホームページで行う。</p>

2 議題

(会長)

では、会議は非公開、議事録は委員名を伏せて公開ということで進めていく。

(1) 議会議員の議員報酬の額について

(事務局から会議の進め方及び資料について説明)

委員からの意見・質疑

(会長)

人口規模の違いもあるが、資料を見ると、県内16市中、下から2番目の額となっているが、皆さんの意見を伺いたい。

(委員)

県内の議員数を比較し、規模的に逗子市や伊勢原市を参考にするべきと考えている。類似団体の資料では、全体的に東京都の報酬額が高いが予算規模が違うし、他の地域については、報酬額が低い傾向にあるため、県内で比較するべきと考えた。

消費者物価指数からみると、2～3%が妥当と考えるが、平成14年から改定されていない状況を踏まえると、もう少し高い率でも良いと考えている。

(委員)

議員活動を見るとそれほど低く感じない。資料に表れない活動もたくさんあり、二十数年ぶりの改定ということで県内の平均くらいまでなら報酬を上げてもいいと思うが、市民の税金から支出するものであるため、市民に説明がつく金額が妥当だと考える。人口が県内で13番目ということから、そのあたりまでの引上げが良いのではないかと。

(委員)

綾瀬市だと県内の平均くらいだと高い気もするが、そこまで引き上げられれば、議員のなり手が増えるのではないかと思う。県内の改定状況を見て、検討するべきと考える。

(委員)

県内で比較すると人口規模がバラバラであるため、県内での比較は難しい。類似団体の状況を勘案して決めていくべき。

類似団体で比較すると議長は高く、副議長は中位ぐらい、議員は著し

く低いという傾向にある。一人当たりの議会コストからみた場合、全体の13番目であるため、極端に報酬額が低い議員報酬のみを類似団体の平均金額まで引上げ、議長、副議長は据え置きでもいいのではないか。議員一人当たりの市民数から見ると中位であるため、一人当たりの議会コストを勘案し、バランスの取れていない議員報酬のみを41万5千円まで引き上げることが良いと考える。

(委員)

各委員の意見どちらも理解できる。20年改定されていない状況を考えて、全体的に上げるべきであると考えている。

(会長)

ご意見ありがとうございます。

他の自治体と比較して、報酬の額が高い金額ではないため、引き上げていくということが全体的な意見かと思う。

(委員)

これまで報酬額の改定が行われてこなかったことを考えると、議長、副議長についても若干でも良いので上げるべきと考える。

(委員)

議員だけ上げるのはどうかというのも理解するが、議長や副議長を少し上げるとするのが、どの程度かの説明が必要になる。その根拠がないため、議長、副議長は据え置き、類似団体でも著しく低い議員の報酬を類似団体の平均まで引き上げるのが良いのではないか。

(会長)

意見は理解できるが、議長、副議長だけ上げないという訳にはいかないのではないか。

(事務局)

各市の改定状況は、一律の率で上げているところが多いが、逗子市だけはそれぞれの率で上げている。

(会長)

改定案について、事務局で何かあるか。

(事務局から改定案について説明)

(会長)

議員定数の削減や改定時期についても検討をしていかなければならないが、まずは改定案について何か意見があるか。

(委員)

議員の報酬の引上げ率を大きくするというのであれば、引上げ率をそれぞれ変えることで対応できないか。

(事務局)

議員の報酬が、市の課長級と近しいため、その率を案として示したが、副議長を参事級、議長を部長級の改定率とする方法で引上げ率を変えていくということは可能である。

(委員)

職員の給与改定率や物価の上昇率、県内の引上げ率については規模が異なるため参考にするのは無理があるのではないか。

(委員)

県内で比較をする際には、県央で比べることが多いように思う。大和市と海老名市は少し規模が大きいいため、座間市の金額を参考に考えるのはどうか。

(事務局から他市の改定根拠について補足説明)

(委員)

他市でも同じような職員の給与の改定率や物価の上昇率を参考に引上げ率を出していることは理解した。

ただ、議員の報酬額を他市と比較した際に、議長、副議長の水準に比べて低いことが気になる。どのくらいの率かは別として、議員の報酬が議長、副議長より上がるように引上げ率に変化をつけて、議員の報酬が上がるよう決めていくべきと考える。その上で、他市の状況を勘案しながら、議長、副議長を上げるようにしたらどうか。

(委員)

来年度の予算に間に合うのか

(事務局)

この審議会の答申の意見を尊重し、予算に反映していく。

(委員)

予算の範囲内で議員と議長の率は変えるのが良い。

(委員)

他市の状況を考慮すると、案1でも良いと思う。

長い間改定しないということではなく、社会情勢の変化を見ながら、今後は適切な時期に改定をしていけば、ここで大幅な増額としなくても良いのではないか。

(会長)

議長、副議長を全く上げないというわけにはいかないように思う。

ここで出た様々な意見や財政面などを考慮し、新たな改定案を示してもらいたい。

(事務局)

いただいた意見をもとに新たな改定案を盛り込んだ答申案を作成する。次回会議の中で再度、ご審議いただきたい。

(委員)

議員定数については、陳情等の経過があるので、報酬額の増額に合わせて、議会で議員定数の削減について検討するよう意見を出して良いと思う。

(2) その他

(次回日程)

令和8年5月25日(月)午後1時30分から開催